

平成30年度

# 岩倉小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

主体的な学習態度の育成と考えを深める話し合い活動を重視した授業実践

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 原 みどり	委員 校長・総括 山越明 教頭・総括補佐 辻宏明 研修主任 出原道代 人権主任 西岡佳江 特別支援教育コーディネーター 西岡田さつき 教務主任 竹岡伸一 3年担任 金崎智子 6年担任 西原寛喜 学力向上推進員 原みどり
------------------	---

校長

山越 明



### (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	○漢字の読み書きや四則計算など、各学年の基礎的・基本的な知識・技能は、ある程度の定着が見られる。 ○ノートを丁寧にとる児童の割合が高まっている。	○児童アンケートの「ノートをいねいに書いている」項目の割合を85%以上にする。 ○「音読やドリルなど宿題に取り組んでいる」項目の割合を85%以上にする。			
課 題	○忘れた漢字等があっても、そのまましておく児童が少なくない。 ○自分の考えを書かず、板書を写すにとどまるノートのとり方をする児童が多い。	○学習の過程が分かるノート指導。 ・国語・算数ではどの学年もマス目ノートを使用する。 ・ノートの取り方のひな形を各学年ごとにつくり、授業で活用する。 ・調べた言葉、また自分や友達の考えを書きこむよう指導する。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>

### (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	○好奇心旺盛で、体験活動を通して課題を解決する学習には積極的に取り組む。 ○自然事象に対する興味関心が高い。 ○話を聞こうとする児童の割合が高まっている。	○児童アンケートの「話をよく聞いている」を70%以上、「進んで発表している」の項目の割合を75%以上にする。			
課 題	○自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力、必要な情報を収集・選択し筋道を立てて説明したりする力について課題が見られる。 ○自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりにして、考えを深めることが困難な児童が多い。	○『授業改善シート』を校内の研究授業や学期に1回以上活用し、指導方法の工夫改善に努める。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>
	○『きき方名人』『発表の仕方』を各学年に常時掲示し、聴く力や話す力の育成に努める。 ○グループ活動や発表形式など学習形態を工夫して児童相互に学び合う場を設定するといった、授業の工夫改善を図る。				

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	○「自分に合った目標をもって勉強している」といった児童が80%以上である。	○国語辞典や学習カードでよく調べている児童の割合を75%以上にする。 ○図書館で20冊(読書カード1枚)以上、本を借りる児童を65%以上にする。			
課 題	○国語辞典を普段から使って言葉を調べる児童が少なく、また学習カードを活用している児童が70%に満たない。 ○全体的に読書量が少ない。	○国語辞典は3年以上全員、学習カードは全学年全員に常備する。 ○学習カードの内容を見直す。 ○自主学習ノートの常時点検を行う。 ○読書ファイルで読書時間を、読書カードで借りている冊数を、月1回確認する。			
	<b>具体的方策(教員の取組)</b>	<b>取組指標</b>		<b>評価</b>	<b>次年度における改善事項</b>
	○国語辞典や学習カードを1人ずつに持たせ、学びやすい環境に整える。 ○毎月読書週間を設定する。そのうち1日を『家庭読書デー』として家庭での読書を呼びかける。 ○毎月末に『家庭学習ふりかえりデー』を設定し、『家庭学習の友』を活用したふりかえりを行う。				

## 平成30年度 学力向上ロードマップ

